

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 1 月 25 日作成)

小委員会名	視環境設計法小委員会	主 査 名：奥田紫乃 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：持田 灯 主 査 名：大井 尚行
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2021 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな時代に適合した明視性や、明るさ・グレアに関する視環境の評価法を整理・集約し、視環境設計法の構築のための課題を体系的に整理する ・個別の課題について WG を設置し、組織的に検討・整備する 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	主査：奥田 紫乃 (同志社女子大学) 幹事：岡本 洋輔 (大同大学) 委員：明石行生 (福井大学), 秋月有紀 (富山大学), 井上容子 (奈良女子大学), 岩田三千子 (摂南大学), 大塚俊裕 (清水建設株式会社), 加藤未佳 (日本大学), 加藤洋子 (交通安全環境研究所), 神農悠聖 (大手前大学), 原直也 (関西大学), 望月悦子 (千葉工業大学), 吉澤望 (東京理科大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	明視評価 WG：視対象の誘目性、探索性、色の判別性などを含める、広義な明視性の再定位について意見交換し、それらの評価法について既存評価法と今後の在り方など議論する 明るさ評価 WG：平均輝度による説明力や、それを超えた特性に対する各指標の適用性を整理するとともに、用途別の目標値などを明確にすることで、内在者にとっての視的快適性を向上させる設計へと結びつける グレア評価 WG：現行の屋内外施設を対象とした種々のグレア評価方法における問題点と、光源の種類や用途によらず統一的なグレア評価法の開発に向けた課題を整理する	
2020 年度予算	136,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：無

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	1. シンポジウム「視環境評価の現状と課題」 参加者数 73 名
大会研究集会	1. (名称) 参加者数 名 (資料名)
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 各 WG の活動内容と方針を議論した。 2. WG 活動が活発に行われた。 3. シンポジウムを開催し、各 WG での活動を報告するとともに、今後の検討課題について議論した。
委員会活動の問題点・課題	なし

2020 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・**最終年度評価**)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>視環境設計の要件、設計法の課題を整理し、取り組むべき課題を検討するための WG を設置し、その活動内容を体系的にまとめた。COVID-19 の影響により、2020 年度は特に活動が難しい時期もあったが、2 年間を通して各 WG はほぼ計画通りに活動を進めることができた。最終年度にはシンポジウムを開催し、各 WG での活動内容を報告するとともに、明るさ感 WG による活動報告では、「窓のある空間における明るさ評価」について小委員会外の聴講者とも議論することができた。小委員会・WG の協働により、互いの活動の位置付けを明確にし、今後の検討課題を明確にできたことなどを含め、有意義な活動であったと考える。</p>			

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。